

## 特集

# 後書き：学生による世界天文年

## ～統計データから見るアマチュア学生の活動～

鈴木隆之

### 1. はじめに

世界天文年に於いては、プロの天文関係者のみならず多くのアマチュアが活躍しました。そして、その中には若手・学生が主体となった活動も本誌に寄せられた多数の寄稿から解る通り色々あるようです。「学生による世界天文年」の一連の寄稿は私が全国に呼びかけたものですが、その後書きとして統計データから見る「学生による世界天文年」について私個人の見解を合わせつつ記したいと思います。

### 2. 天文冬の陣：報告会の報告

昨年のアマチュアとして天文活動をしている学生の全国集会「第 21 回天文冬の陣」に於いては天文年に活動した学生団体の活動報告会が行われました。この企画は私が昨年 9 月の実行委員内の会議で提案したところ、審議の結果可決され実施されるに至りました。そして私は発表者への依頼・仲介を担当し、明治大学の廣田央が当日の司会とコーディネートを担当しました。天文冬の陣は 12/27～28 の日程で行われましたが、報告会「学生による世界天文年」は一日目の海部宣男先生の講演の後に行われ 15:30 から約 1 時間半ほど実施されました。

- ・ 関西学生星のネットワーク
- ・ 北海道大学天文同好会
- ・ 茨城大学星見同好会(星空公団水戸)
- ・ 宮城教育大学天文同好会

の 4 団体によって行われ、各 15～20 分程度の発表になりました。ディスカッションをその後に行う予定でしたが、時間が押していたので、簡単な質疑応答をした後、海部先生か

らのコメントを頂いた後、幕となりました。

また、二日目にはポスターセッションが行われ、その場に於いても天文年関係の活動報告のポスターが何点か展示されました。

学生による天文普及を考えるととてもいい機会になった事かと思われます。

私個人としては「時間がもっとあれば、天文年に活動した全ての団体が口頭発表をする事が出来たし、もう少し議論を深める事が出来たかな」という想いもありました。そんな時に思いついたのが天文教育への寄稿で、冬の陣の参加団体に加え、発表しなかったけれど行く事が出来なかったという団体にも呼び掛けて、実現したのがこれらの記事です。

### 3. アマチュア学生による世界天文年

個々の団体の活動に関しては当事者によって書かれた記事をご参照ください。ここでは「世界天文年で、アマチュアは頑張ったのか？学生は頑張ったのか？」を統計データから考えてみたいと思います。

#### 3.1 アマチュアは頑張りました

表 1 は世界天文年 2009 グランドフィナーレにて公開された公認イベントの主催者を JAPOS(日本公開天文台協会)・JPA(日本プラネタリウム協議会)・PAONET(公開天文台ネットワーク)の所属別に分類したものです。「どれでもない」が一番という結果です。

JPA・JAPOS・PAONET に関連しない団体の活動＝アマチュアではないのかもしれませんが、これまで天文普及活動の一役を担ってきた団体・施設のみならず、色々な人が活

動に参画したことは否めないかと思われます。 1.9%に留まります。

本誌に寄稿された個々の活動は大変有意義なものだと思いますが、数字の上では非常に残念な結果となりました。

表 1 主催団体の加盟団体別分類

|                        |      |
|------------------------|------|
| JAPOS(日本公開天文台協会)       | 95   |
| JPA(日本プラネタリウム協議会)      | 161  |
| PAONET(公開天文台ネットワーク)    | 124  |
| JAPOS かつ JPA           | 8    |
| JAPOS かつ PAONET        | 20   |
| JPA かつ PAONET          | 48   |
| JAPOS かつ JPA かつ PAONET | 30   |
| どれでもない                 | ◎587 |

## 2.2 学生の公認企画は少ない

次に、学生団体の活動がどのくらい行われているか考察します。これについては公式なデータが公開されていません。大阪大学大学院 M2 の長澤健一氏の協力の下、主催団体の分類表を作成しました(表 2)。これは 2009 年 11 月の段階で世界天文年 2009 日本委員会の公式サイトに記載されている公認イベントの一覧を見て、独自に分類したものです。団体の分類は全くの主観で行ったもので、公式発表の活動団体数とずれがあったりと若干の不正確さを含むのですが、活動団体の内訳を知る手掛かりになるものかと思われます。

表 2 主催団体の分類(独自調査)

|         | 北海道・東北 | 関東   | 中部   | 東海   | 関西   | 中国   | 四国    | 九州・沖縄 | 合計   |
|---------|--------|------|------|------|------|------|-------|-------|------|
| 学生団体    | 3      | 3    | 1    | 2    | 2    | 1    | 2     | 0     | 14   |
| 社会人団体   | 26     | 49   | 11   | 13   | 25   | 15   | 2     | 16    | 157  |
| 個人(社会人) | 2      | 14   | 4    | 2    | 7    | 0    | 2     | 0     | 31   |
| 教育機関    | 4      | 32   | 8    | 9    | 11   | 9    | 2     | 7     | 82   |
| 社会教育施設  | 30     | 86   | 23   | 24   | 39   | 25   | 9     | 32    | 268  |
| 一般企業    | 4      | 42   | 14   | 6    | 16   | 1    | 0     | 5     | 88   |
| 行政機関    | 7      | 15   | 5    | 6    | 10   | 5    | 0     | 0     | 48   |
| 財団法人    | 0      | 14   | 2    | 5    | 5    | 4    | 1     | 4     | 35   |
| その他     | 6      | 8    | 2    | 0    | 4    | 0    | 0     | 1     | 21   |
| 総数      | 82     | 263  | 70   | 67   | 119  | 60   | 18    | 65    | 744  |
| 学生団体の割合 | 3.7%   | 1.1% | 1.4% | 3.0% | 1.7% | 1.7% | 11.1% | 0.0%  | 1.9% |

ご覧の通り、こちらの表でもアマチュアの活動が盛んである事が解ります。(社会人団体と言うのは所謂ご当地の天文同好会等です。)併しながら、残念な事に学生団体は指折り数えるほどに留まり、全国の活動団体の中の

## 2.3 学生の普及活動への意識は高い

世界天文年に於いては様々なスローガンが掲げられましたが、世界天文年の趣旨はあらゆる人に天文・宇宙の魅力を伝えていこうという「天文普及」にあると私は捉えています。なのでここでは学生による世界天文年の公認イベントに限定せずに、学生による天文普及活動全般に視野を広げながら議論を進めていきます。

アマチュアとして天文に携わる学生の意識調査は一昨年の第 20 回冬の陣の実行委員会によって実施されました。図 1 がそのデータになります。(これは天文教育 2009 年 11 月号の 72 頁に掲載されたものと同一です。)

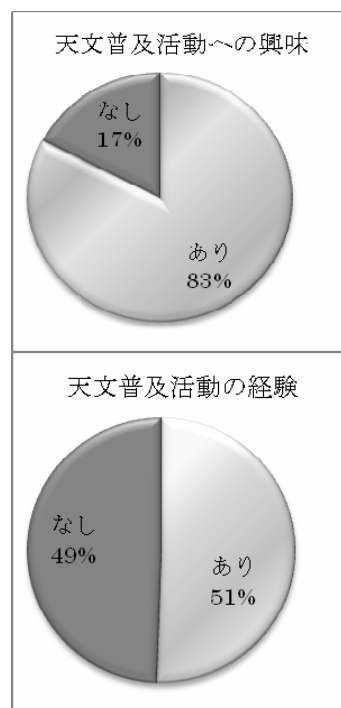


図 1 第 20 回冬の陣に於ける参加者アンケート結果

この通り、大多数の学生が感心を示し、実際に活動をしているという結果です。

先程の話とは相反するものになります。「冬の陣はアマチュア天文界の学生全国集会」と紹介しましたが、実際に参加している学生は一部に限られます。この調査がアマチュアとして天文活動をしている学生の総意を反映しているか何とも言えません。

それでも、一定のサンプルを集めたデータとして目安にはなると思われます。ではなぜ、天文年に公認イベントを申請した学生団体は少ないのでしょうか。

登録をせずに独自に活動をした団体もあると思われます。また学生主催ではなく社会人団体や公的な機関の主催する活動に一スタッフとして協力した学生も相当数いるのではないのでしょうか。私の周辺にも天文台や科学館等でアルバイト・ボランティアをしている学生がおります。私自身も現在、学生主体の形での天文普及活動は行っておりませんが、山口県教育委員会での理科支援員や山口県防府市青少年科学館で非常勤の太陽望遠鏡の解説員などをしております。

学生主催で天文普及イベントを実施すると、色々難儀なこともあると思われます。「未熟な学生の内は、社会人のプロの指導者の下で活動したほうが良い」その様な考えもあるのかもしれない。

なので私は、公認イベントの主催団体の中で学生団体の割合が少ないからと言って、「学生が天文年で活躍していない」とか「天文普及に興味を持つ学生団体が少ない」と決めつけるのは早合点ではないかと考えています。

### 3. まとめ

学生による天文普及活動をより盛んにしていくにはどのようにすればよいのでしょうか。

冬の陣の報告会で各団体が口をそろえたよ

うに主張していたことが頭に浮かびました。

「自分たちはアマチュアだから、天文普及は義務ではない」「自分が好きな事を他の人にも伝えたいだけ」「まず自分たちが楽しんでこそ」「相手に押しつけてはいけない」「でも、それだからこそ、その楽しさが相手に伝わる」ということです。

アマチュアであり学生というのは何の束縛もなく自由な立場にあります。多くは天文普及を主目的とする団体ではありません。来年以降もこの様な普及活動が継続される保証はどこにもありません。その意味ではアマチュア学生による天文普及活動はとても脆弱なものです。しかし、その自由な立場を生かし、独自のアイディアを基に、若さと勢いの赴くまま思う存分に活動した結果、有意義な成果を結んだ団体があるのも又事実です。

天文普及を推進する立場からアマチュアの学生に何か呼び掛ける際は、堅苦しく天文普及の大義名分を説くよりも、天文普及活動の楽しさを素直に伝えて、活動の輪を広げていった方が効果的なのかもしれません。

### 謝辞

今回、学生による天文年の活動の記事を冬の陣メンバーやそれ以外の皆さんに寄稿をお願いしました。ご協力を頂いた檜木さん、五十嵐さん、長澤さん、岡村さんに感謝の意を表します。

冬の陣での天文年報告を提案したのは私ですが、おぼろげながらの私の案を形あるものに仕立て上げたのは当日の司会を担当した明治大学天文部所属の廣田央さんです。

廣田さんにも感謝の意を表します。

鈴木隆之